

秋経協 令和6年 新春経済講演会

演題 「2024年の秋田の経済展望」

講師 日本銀行秋田支店長 片桐 大地 氏

共催 ・秋田経済倶楽部 ・渋沢栄一記念財団竜門社秋田支部



「新春経済講演会」（秋田経済倶楽部、竜門社秋田支部共催）が1月23日午後4時より、ANAクラウンプラザホテル秋田で開催されました。

講師に日本銀行秋田支店長の片桐大地氏を迎え、「2024年の秋田の経済展望」の題目で講演いただきました。「新春経済講演会」での日銀秋田支店長の講演は今年で連続3回目。国内外の経済・金融動向にかかる多方面にわたる分析結果をわかりやすく解説いただいております、会員からは高い評価が寄せられています。

今年の講演会には80名を超える会員が出席。1時間余りの講演にメモやパソコンを操作しながら熱心に聴き入り、今後の自社経営の方向性を考えるうえで非常に参考になったとの声が多数聞かれました。

講演は「秋田県経済の状況」、「物価動向と金融政策」、「海外経済の状況」の3点について説明いただいた。

第1の「秋田県経済の状況」については、初めに1990年以降の業況判断D.I.をとりあげ、経済動向については長期的な目線が重要であり、どのようなトレンドにあるかにより関心があるとしたうえで、バブル崩壊後のボトム期以降、リーマンショックやコロナショックを経ながらも、長期目線でみればプラス圏内に向かって上向きトレンドにあるとの見方を示された。

足元の県内経済は12月短観の全産業の景況感が8となり、9月数値を4ポイント上回った。個人消費は節約志向が高まっているものの晴れの日需要も相応にあり全体的には底堅く、公共投資の下支えや旺盛な設備投資と相まって、引き続き「県内景気は、緩やかに回復している」と述べられた。

第2の「物価動向と金融政策」については、物価上昇に作用する「二つの力」を解説した後、2021年以降の物価上昇がまずは「第1の力：輸入物価上昇の価格転嫁」によってもたらされ財価格の上昇だが昨年半ばには低下に転じ、かわって人件費の影響を受けやすい一般サービス価格がじわじわ上昇しつつあるとした。物価安定目標に近づいたか評価するうえでのポイントは、物価上昇に作用する「第2の力：賃金と物価の好循環の強まり」であり、景気改善のもとで賃金が上昇し、それが物価の緩やかな上昇につながるメカニズムが強まっていくのか、それに伴い、将来の価格上昇を見越したフォワードルッキングな賃金・価格設定が広がっていくかであると説明いただいた。

第3の「海外経済の状況」については、米国・欧州・中国・その他の地域ごとに経済・金融情勢やリスク要因などを解説いただいた。

最後に、県内企業経営者が経営課題ととらえている事項として①「収益力の持続的向上」、②「価値に見合った価格転嫁」、③「従業員の維持・確保のための持続的賃上げ維持」があげられることを紹介し、講演会を終了した。